

授業科目 母性看護学特論	科目概要・形式 2 単位 30 時間	配当年次 1 年 前期
科目責任者	大関信子	
担当者	大関信子 谷川涼子	
<p>1. 科目のねらい・目標</p> <p>リプロダクティブヘルス・ライツの自己決定の概念を基幹として、ライフサイクル毎における女性の特徴を理解し、健康問題の診断や看護援助方法を学ぶ。</p> <p>また、健康教育や相談を含めたヘルスプロモーション、性や性機能に関するケアシステムや倫理的問題についても文献講読や事例をどうして学ぶ。</p>		
<p>2. 授業計画・内容</p> <p><大関担当分></p> <p>第1～2回 母性看護学概論</p> <p>1) ウィメンズヘルスとは</p> <p>2) リプロダクティブヘルス・ライツとは</p> <p>3) Gender-specific medicine</p> <p>第3～6回 性成熟期から更年期のケア</p> <p>1) セクシャリティ・身体的・心理社会的特徴</p> <p>2) ケアシステムとリプロヘルス上の問題</p> <p>3) 対象理解(事例)：アセスメントとケアの実際</p> <p>第7～8回 母性に関する諸問題（未婚、晩婚、不妊症、生殖医療の倫理的問題等）</p> <p><谷川先生></p> <p>第9回～11回</p> <p>1) 思春期の特性と健康課題</p> <p>2) 10代の母親のケアと退院指導</p> <p>3) 障害を持った子どもの母親のケアと退院指導</p> <p>第12回～14回</p> <p>1) 対象理解（事例）虐待のある家族の母親のアセスメントとケアの実際</p> <p>2) 対象理解（事例）リストカットなど精神障害を抱えた母親のアセスメントとケアの実際</p> <p>3) 対象理解（事例）育児不安を抱えた母親のアセスメントとケアの実際</p> <p><大関・谷川></p> <p>第15回 コースレビュー</p>		
<p>3. 教科書、参考書</p> <p>参考文献は随時紹介する</p>		
<p>4. 成績評価方法</p> <p>小論文、毎回のプレゼン等、総合評価</p>		
<p>5. 受講要件</p> <p>看護師の資格を有し、母性・小児看護領域での臨床経験を有すること。</p>		
<p>6. 社会人学生に対する配慮</p> <p>講義の日時は学生の相談に応じる。</p> <p>講義内容は、受講生の希望により多少の変更は可能とする。</p>		
<p>7. その他</p> <p>事前学習と講義でのプレゼンやディスカッションがあります。</p> <p>講義の1週間前までに担当教員に連絡を取り、課題学習等の指示をもらって下さい。</p>		

